

Pot2 rep-PCR DNAフィンガープリント法を用いた葉いもち病斑の穂いもちに対する感染源としての有効水平的拡散距離

福島県農業試験場病理昆虫部
平成15年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

水稻－水稻－病虫害防除
分類コード 01－01－23000000

2 担当者

山田真孝・根本文宏

3 要旨

Pot2 rep-PCR DNAフィンガープリント法を用いて、穂いもち伝染源となる葉いもち病斑部位の解明といもち病菌の有効拡散距離について検討した。

- (1) Pot2 rep-PCR DNAフィンガープリント法を利用することで、穂いもち発生に大きく影響する葉いもち発病葉位が上位5葉であり、特に止葉、次葉に発生した病斑が穂いもち伝染源としての役割が大きいことがわかった。
- (2) 平成15年の冷害条件下では、通常年では穂いもち伝染源となる可能性が低い下位葉から飛散したいもち病菌胞子が、穂いもち伝染源となっていたことがわかった。
- (3) 異なるフィンガープリントを持ついもち病菌を利用して、葉いもち病斑から穂いもち伝染源となる胞子がどれくらい飛散するかを調べた結果、その拡散距離はあまり遠くなく、約10m程度であった。

4 その他の資料等

なし